

# 八王子市の魅力を広める「八王子みやげ」

‘Hachioji Souvenirs’ to spread the charm of Hachioji City.

グループ名：八王子みやげ  
中釜 はるひ<sup>1)</sup>、森下 なな<sup>2)</sup>  
指導教員 李 盛姫<sup>1)</sup>、谷上 欣也<sup>2)</sup>

- 1) サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 ビジュアルコミュニケーション研究室
- 2) サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 プロダクトデザイン研究室

キーワード：八王子市、お土産、扇子、木葉天目

## 1. 研究背景・目的

サレジオ高専デザイン学科では、八王子市学園都市文化ふれあい財団との官学協同課題として、例年八王子まつりで販売される手ぬぐいのデザイン提案を行っている。その過程で、八王子市には、自然や伝統文化など、他の地域にはない魅力が多岐にわたって存在することを知った。私たちはその魅力を、八王子市内外に広めることを目的として、「八王子市のお土産」を提案する。お土産は、手に取るたびに旅先の思い出がよみがえる‘記憶’媒体の側面と、お裾分けで頂いた品からその土地について知るきっかけになり得る‘広告’媒体としての側面を併せ持つ。アイテムと記憶が結びつきやすいという利点と「人から人へ」、「観光地から人へ」の両方の繋がりを強くアピール出来る点から、お土産という形式を選択した。

## 2. 提案概要と今後の展開

グループ内でそれぞれが思う八王子市の魅力をピックアップし、2つの異なる角度からアプローチしたお土産の提案を行う。

### 2-1. 歴史と自然文化を伝えるお土産(中釜)

八王子市の魅力の一つに、歴史や豊かな自然に基づいた文化が数多く残っているという点が挙げられる。中でも、八王子市は養蚕や織物業が栄えた街であり、北条氏照のもと築城された八王子城を中心としたその市場から「桑都」と称されてい

た。この魅力に着目し、お土産を提案する。

#### 2-1-1. 調査

「桑都」に着目し、調査を進めた結果、千人同心組頭の塩野適斎が著した、「桑都日記稿本」には、北条氏照が城下の景勝地の情景を詠んだと伝えられる「桑都八景」が記述されていることを知った。八つ全てが“景勝地名+情景や季節に関する言葉”となっており、当時の桑都の景色が詠まれている。

#### 2-1-2. 分析・考察

「桑都八景」は、情景が目に浮かぶような美しい日本語で構成されていることも魅力の一つである。お土産のデザインに取り入れることで、桑都の情景をよりイメージしやすくなるのではないかと考えた。また、桑都八景の中には、現在でも観光可能な場所があるため、観光地をアピールする宣伝広告としての効果も期待できると考える。

#### 2-1-3. 提案内容

「美しい桑都の歴史と自然文化を身近に」をコンセプトに、デザイン軸として「桑都八景」を取り入れた「絹扇子」をお土産として提案する。扇面に絹を使用することで、手軽なお土産としての利用だけでなく、贈り物にも適したブランドとしてアプローチできる。また、伝統産業であった「絹」を使用することで、「桑都=絹の町」というイメージをさらに後押しするとともに、地域産業の製品を日常に手軽に取り入れるきっかけとしたい。



図1 桑都八景のカラー検討と扇子の試作

## 2-1-4. 今後の展開

デザインの試作を進め、扇子本体のデザインの他にも、販売形態の想定やパッケージデザインの検討を行っていく。

## 2-2. 自然風景を連想させるお土産（森下）

### 2-2-1. 調査

八王子のお土産について調査したところ、菓子土産が一番多い事がわかった。そこでGoogle フォームにて10~20代の男女45名からアンケートの回答を得た。菓子土産を買うかとの設問では、「たまに買う」が60%、「必ず買う」が24.4%、「買わない」が15.6%で、菓子土産を買う人が多いことが分かった。また、お皿を使って食べるお菓子は何かという問い合わせに対しては、和菓子やバームクーヘン、ケーキ、赤福などの生菓子が多く挙げられた。

### 2-2-2. 分析・考察

調査から、今あるお土産を活かしつつ、思い出として手元に残すことができる土産は、お皿だと考えた。以前、道の駅滝山に行った際にお土産コーナーをみたところ、名物のお菓子や産地直送の野菜などが多く、やはり手元に残るお土産は少ないと感じた。お土産には、実用性は少なく、お菓子と関連させるには難しいものしかなかった。これらの調査結果から既存のお土産には展開されることが少ないお皿に決定した。お皿にすることにより、既存のお菓子土産とお皿のセットで売ることができる為、手に取りやすいと考えた。

### 2-2-3. 提案内容

八王子の自然風景を連想させられるお皿の提案をする。八王子市は至る所にイチョウが存在している。最も有名なのは甲州街道のイチョウ並木だ。今回は葉っぱをお皿に焼き付ける為には、木葉天目という技法を用いる。(図2) 木葉天目では、葉っぱの形や大きさ、色が全て異なるため、全く同じお皿は作れない。その為、八王子市を訪れた記憶と、モノが結び付く特別なお土産になると考えている。



図2 木葉天目を用いたお皿の試作

### 2-2-4. 今後の展開

試作を複数回行い、本製作に向けてブラッシュアップを行っていく。お土産としての販売形態の検討も進める。

## 3. 参考文献

- [1]八王子市 HP: 其の六 桑都八王子は織物のまち  
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kankobunka/003/monogatari/p026930.html> (2022.6.13閲覧)
- [2]八王子市 HP: ストーリーの構成文化財  
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kankobunka/003/takaosann/p026874.html> (2022.8.28閲覧)
- [3]美甘 由紀子: 八王子八景  
郷土資料館だより No. 75 2004年発行
- [4]八王子 HP: 市章・市歌・市の木・花・鳥  
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/hachiojikids/001/001/p020049.html> (2022.10.3閲覧)